

コース・レート査定の必要性 と 倶楽部としての準備

関東ゴルフ連盟 理事
コース・レート委員会 委員長
岡田 光正

講演の内容

1. コース・レートについての役割と必要性
2. コース・レート査定のやり方
3. コース・レート査定に対する、
倶楽部としての準備と役割

1. コース・レートについての役割と必要性

コース・レートとは

- JGA ハンディキャップを査定するための基礎
数値
- コース・レート決定方法

2. コース・レート査定のやり方

コース・レート査定方法

■査定の4種類

1. **新規査定** : 初めてのコース・レート取得の場合
2. **再 査 定** : 査定後15年以内でコースを改造した場合
3. **机上査定** : 査定後15年以内で改造の度合いが少なく
図面の査定で済む場合
4. **15年再査定** : 査定後15年以上経過した場合

■15年再査定について

- 15年再査定では、J G Aが平成12年に
「J G A公認コースレーティング」の認定期間を15年と制定
- 査定後15年経過した倶楽部は15年再査定が必要
- 15年以上経過した倶楽部はK G Aより年末に通知
- 再査定を未実施の場合はJ G Aコースレーティングは
無効となり一覧表より削除される

査定方法と査定時期

■ 査定方法→実際に査定委員がコースを確認

■ 査定日数→1日で終了

■ スタート

→トップスタートの18ホールのスループレー

■ 査定時期

→3月下旬から12月上旬まで

→一年を通じて平均的なコースコンディションを想定

男子コース・レートと 女子コース・レートについて

■ 世界各国のハンディキャップシステム

→男女別々の基準

■ 日本のコース・レートの場合

→男女別々のコース・レート数値を採用

→各申請ティーに対して

男子コース・レート、女子コース・レートの
2つの数値を決定

■ JGAハンディキャップ

→男女別々のJGAハンディキャップを算出

コース・レート数値の決定方法

■ コース・レート数値の算出方法

→『JGAコースレーティング・システム全国統一査定実施要項書』

■ コース・レート数値査定方法

→実測図面を基に、スクラッチ・プレーヤーがプレーする時のラウンドを念頭におきながら、各ホールの査定距離と難易度を査定して、計算方式に基づいて決定

■ コース・レート決定までの流れ

①査定後当日小委員会開催:委員会に提出する数値を決定

↓

②委員会:小委員会から提出された数値を検討してコース・レート数値を決定

↓

③委員会で決定後、事務局より書面にて倶楽部に通知

コース・レート査定の計算方法

- 男子、女子それぞれ指定の計算方式に基づいてコース・レート数値を決定

■ 男子コース・レート計算方式

(査定距離 ÷ 210ヤード) + 39.76 ± 難易度 + 補正係数

■ 女子コース・レート計算方式

(査定距離 ÷ 190ヤード) + 41.67 ± 難易度 + 補正係数

- 査定距離: 18ホールに対する査定委員の実行プレー距離(プレーイングディスタンス)
- 210・190ヤード: JGAで採用している距離の定数
- 39.76・41.67: JGAで採用している18ホールに対するパットおよびグリーンまわりのリカバリーショットの定数
- 難易度: 査定委員が査定した難易度数値。幅は±1.8以内(原則)
- 補正係数: 仮・査定レートが69.9以下の場合に内規として使用する数値

※いずれの項目も詳細な数値や決定数値は非公開

(例) コース・レート数値の算出

- 実測距離: 7,000ヤード、査定距離: 6,800ヤード(-200ヤード)、難易度: +0.5000の場合、
- 男子コース・レートの数式に当てはめると、コース・レートは72.6
- 式: $6,800 \text{ ヤード} \div 210 + 39.76 + 0.5000 = \underline{72.6}$

男女の距離レートを 72.0とした場合のヤーデージ

【男子コース・レート】

$$72.0 = \frac{6,770 \text{ ヤード}}{210} + 39.76$$

【女子コース・レート】

$$72.0 = \frac{5,763 \text{ ヤード}}{190} + 41.67$$

※男女の間には約1,000ヤードが妥当

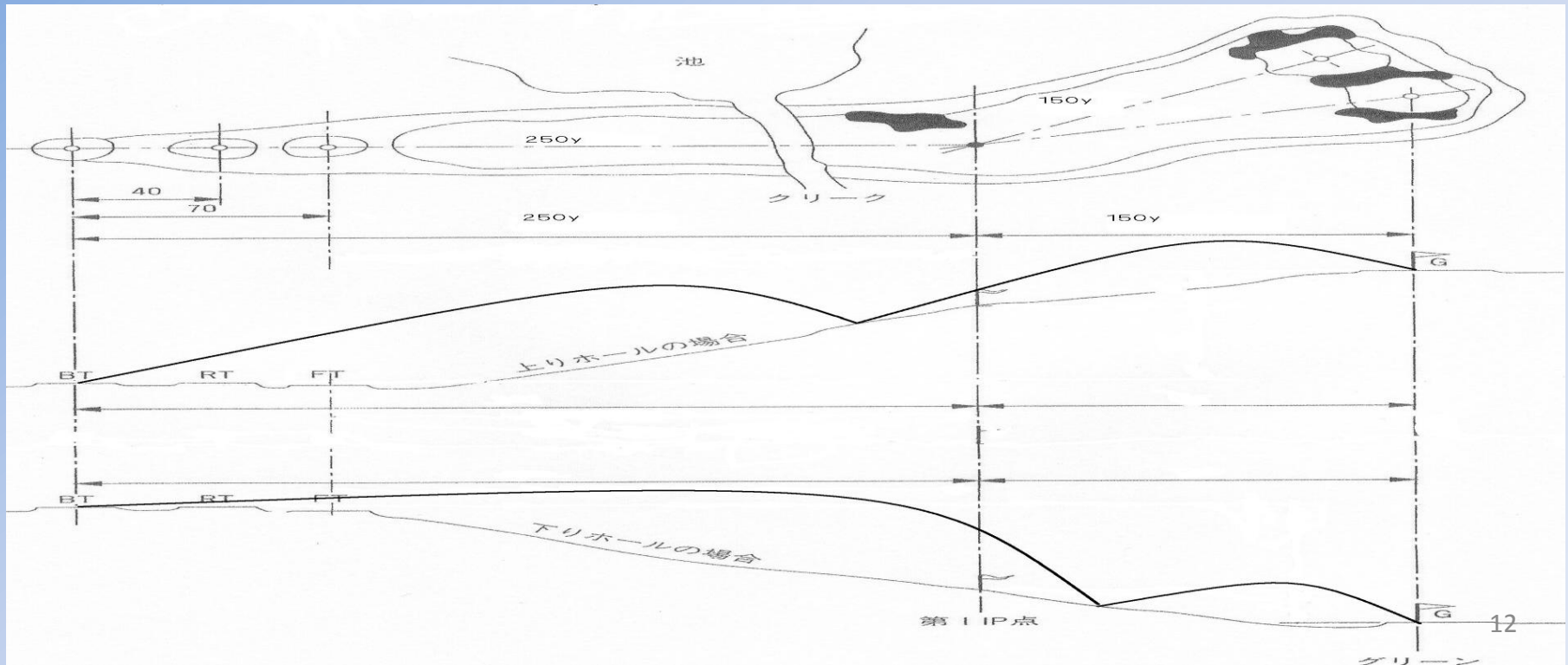
査定距離について

- ・水平距離測定法に従って提出された実測距離を基にIPを設定して、実際にスクラッチ・プレーヤーがグリーンに到達するまでに必要とする距離を査定したもの

■ (例) 査定委員が実側400ヤードのホールを査定した場合

上りホール: $250\text{ヤード} + 180\text{ヤード} = 430\text{ヤード}$

下りホール: $250\text{ヤード} + 110\text{ヤード} = 360\text{ヤード}$



査定距離シート

コース・レート距離査定シート

1. 委員名
2. 査定日
3. 倶楽部名
4. グリーン名

ホール別			B T		R T		F T-1		F T-2		L T-1		L T-2	
N0	パー	高低差	実測値	査定±	実測値	RT-BT	実測値	FT1-BT	実測値	FT2-BT	実測値	LT1-BT	実測値	LT2-BT
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
Out														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
In														
Total														

特記事項

①ロールの修正

- ランディングエリアにおけるボールの転がりを±で修正
- 落下地点の傾斜について(上り、下り)判断
- 一年を通じてのFWの状態を判断



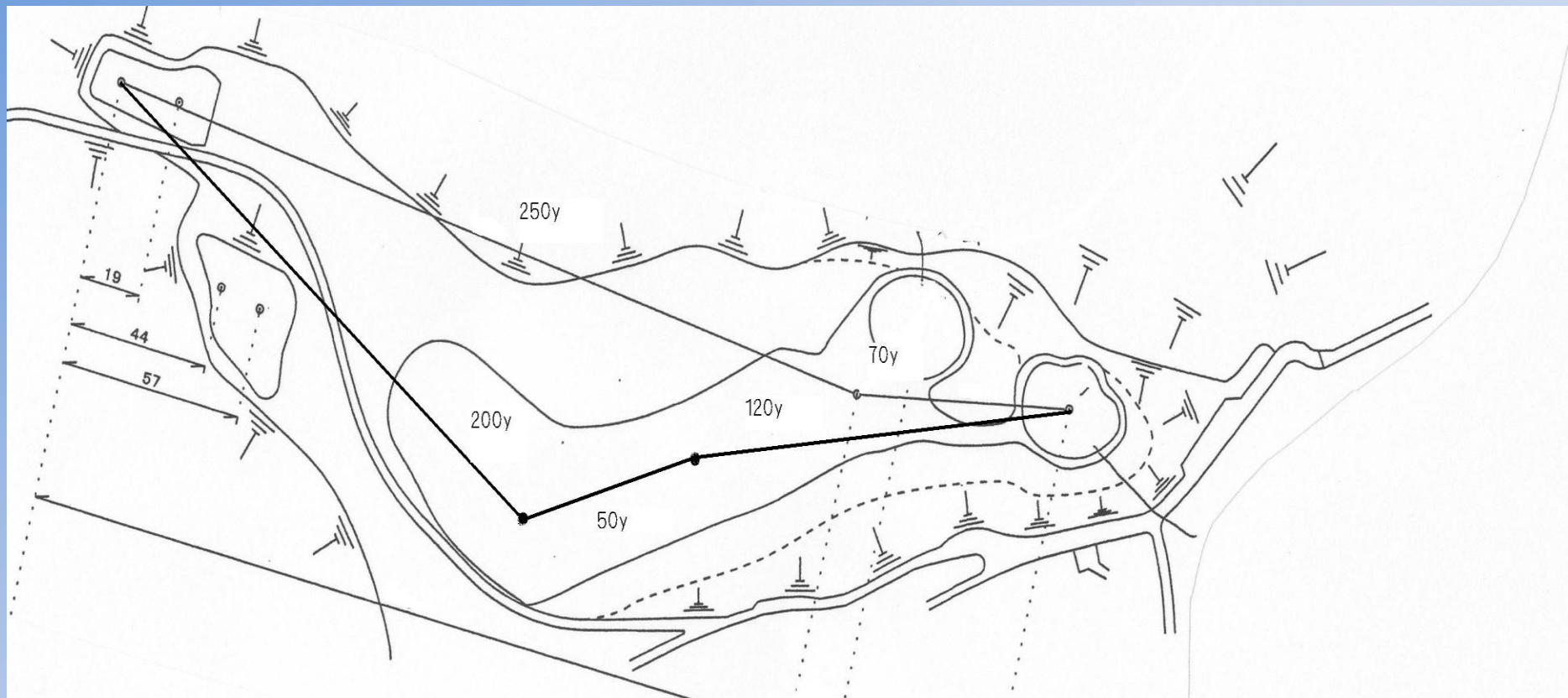
②高低差の修正

- コース全体の打ち上げ、打ち下ろしの状況を±で修正



③ドッグレックの修正

- ・遠回りを考慮するかまたはしないか、ショートカットが可能かどうかの状況を±で修正



直線: 250ヤード + 70ヤード = 320ヤード

ドッグレック: 200ヤード + 50ヤード + 120ヤード = 370ヤード

④障害によるフルショットの コントロールの修正

- ・ 障害に対してティーショット、セカンドショットのレイアップの判断



その他の修正

⑤風の影響に対する修正

- ・ 対象は『シーサイドコース』『樹木に囲まれていないコース』『平坦地にあるコース』『常に同じ方向に吹く風がある』などのコースにのみ実測距離の修正

⑥高地に対する修正

- ・ 高地の場合、海拔高度の高い所では、球の飛距離が伸びるので、修正
- ・ 目安としては、海拔700m以上
※正常のショットより1割強は飛距離がでるため

⑦総合判断による修正

- ・ 査定終了後、コースの特徴、実測数値の修正などについて総合的な判断を行い、18ホール全体の修正を決定

難易度について

- 平成6年(1994年)より特に難易度を重視
- 10項目に分けて、0～9点の採点
- 計算方式にあてはめ、査定を行う
- 難易度評価基準
 - 難易度平均→5点→難易度数値→0
 - 難易度平均→7点→難易度数値→+1.8
 - 難易度平均→3点→難易度数値→-1.8

難易度査定シート

コースレート難易度査定シート

1. 委員名:
2. 査定日:
3. 倶楽部名:
4. グリーン:

コース名称:

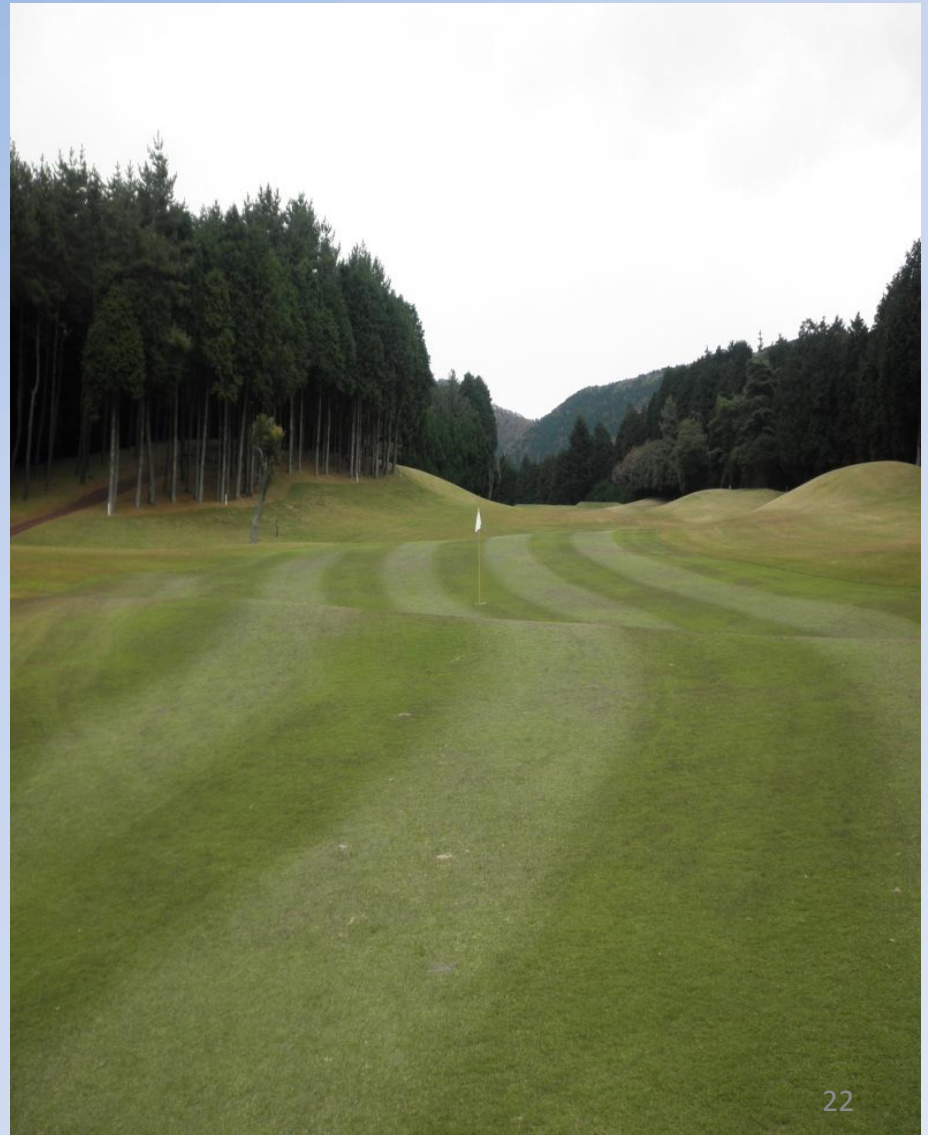
評価項目	地形及び 心理的影響	FW	ラフでの リカバリー	OB	W・H	樹木	バンカー	グリーンへの 目標アプローチ	グリーン周辺 のリカバリー	グリーンの 表面と状況	合計	ホール別	実測距離	査定±	高低差
Par 3 の場合	Par														
No ~	3		—	—											
~	3		—	—											
難易度・評価点計		—	—												
評価比重・基準点		—	—												
評価比重点計(A)		—	—												
Par 4 の場合	Par														
No ~	4														
~	4														
~	4														
~	4														
~	4														
難易度・評価点計															
評価比重・基準点															
評価比重点計(B)															
Par 5 の場合	Par														
No ~	5														
~	5														
難易度・評価点計															
評価比重・基準点															
評価比重点計(C)															
総合計(A+B+C)												合計	実測距離	査定±	高低差

難易度＝

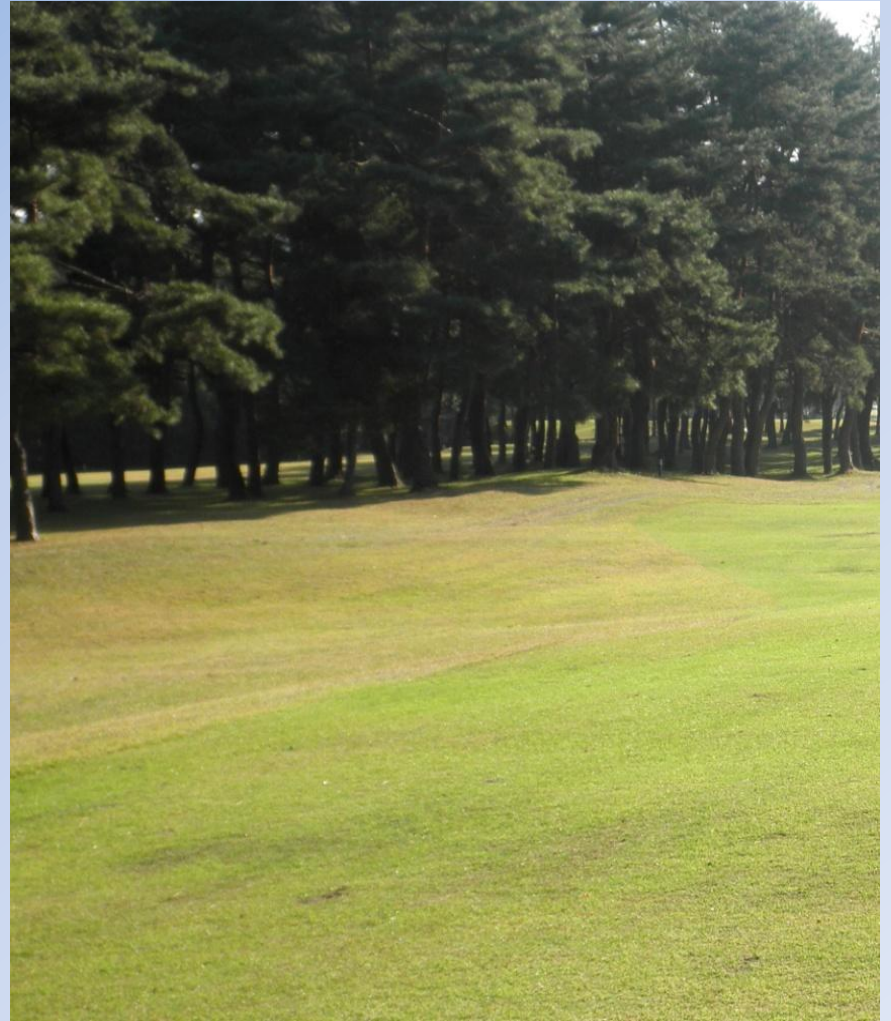
①地形に関する評価



②FWに関する評価



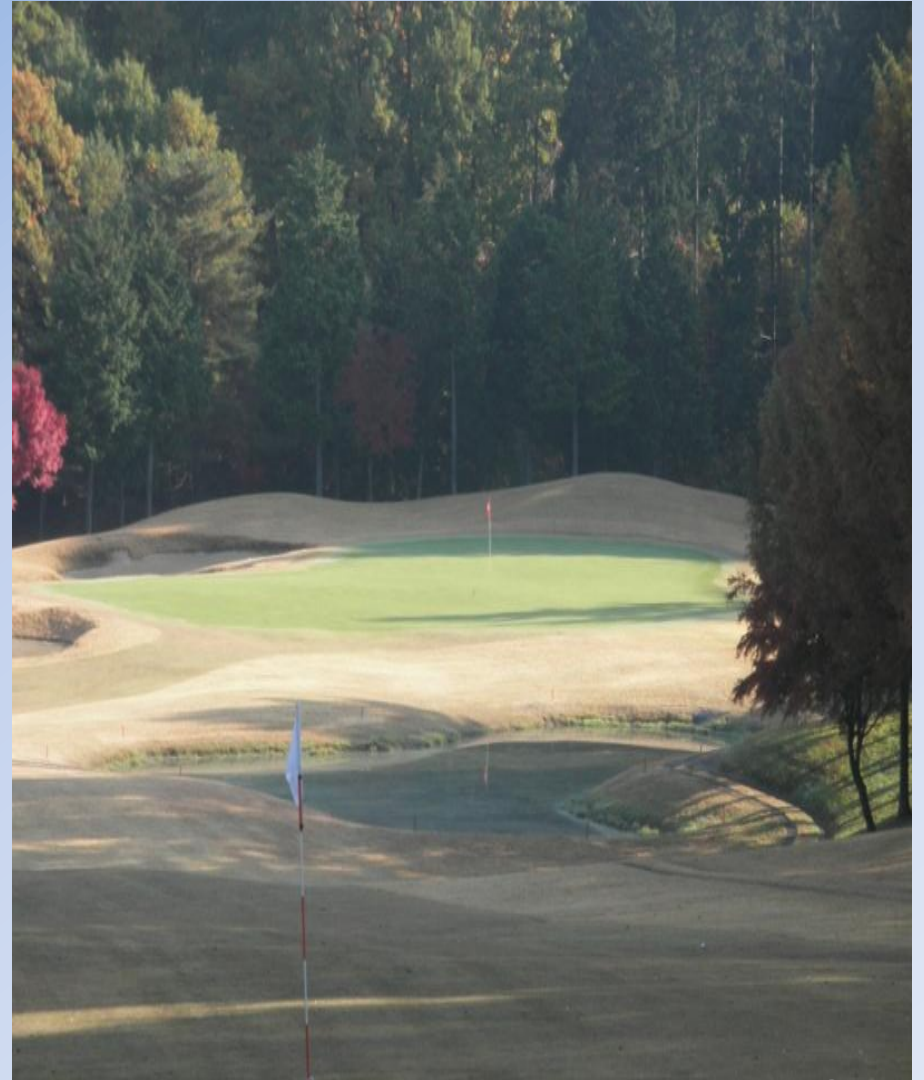
③ラフでのリカバリーに関する評価



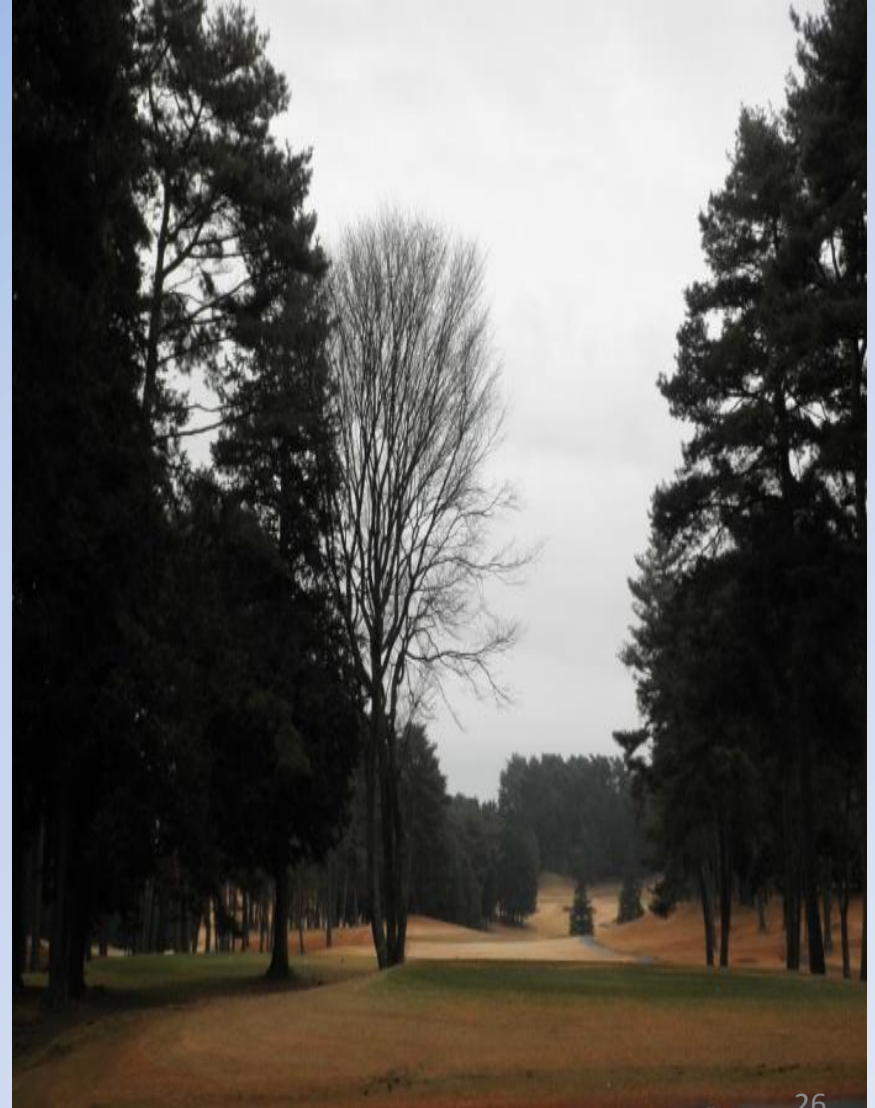
④アウトオブバウンズに関する評価



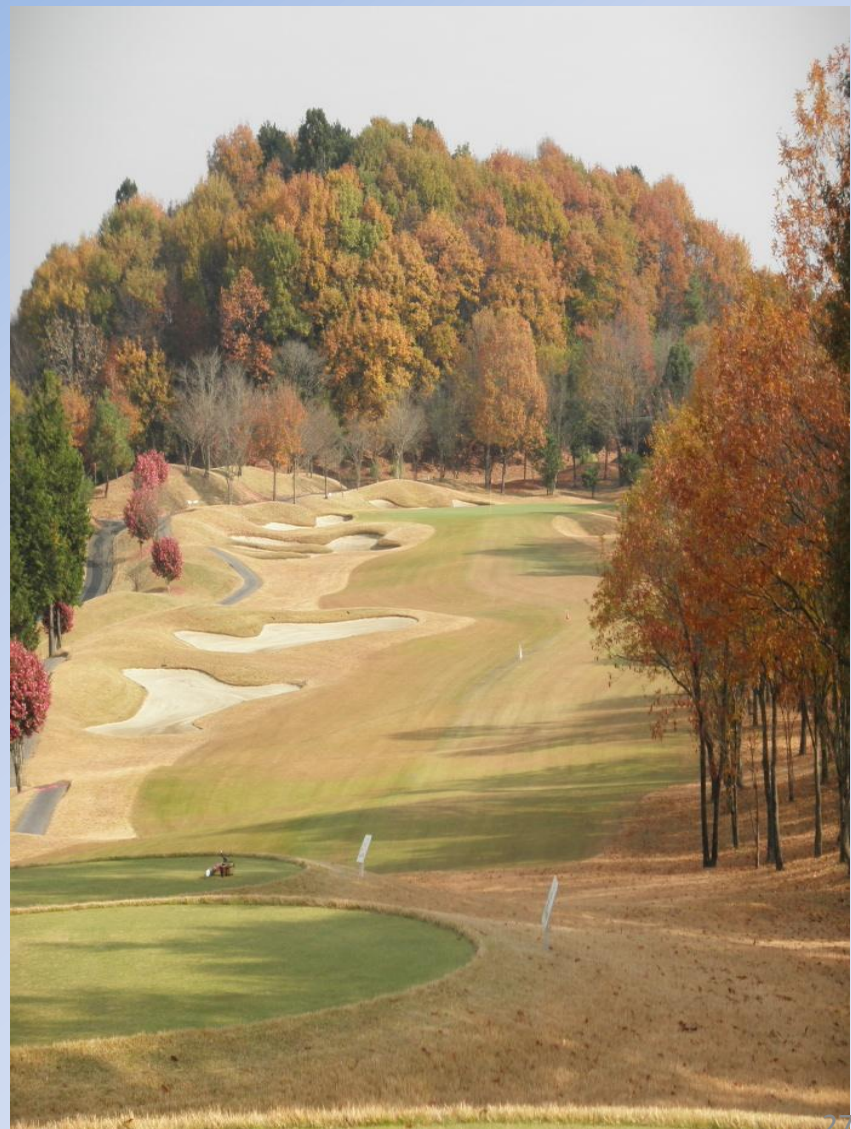
⑤ウォーターハザードに関する評価



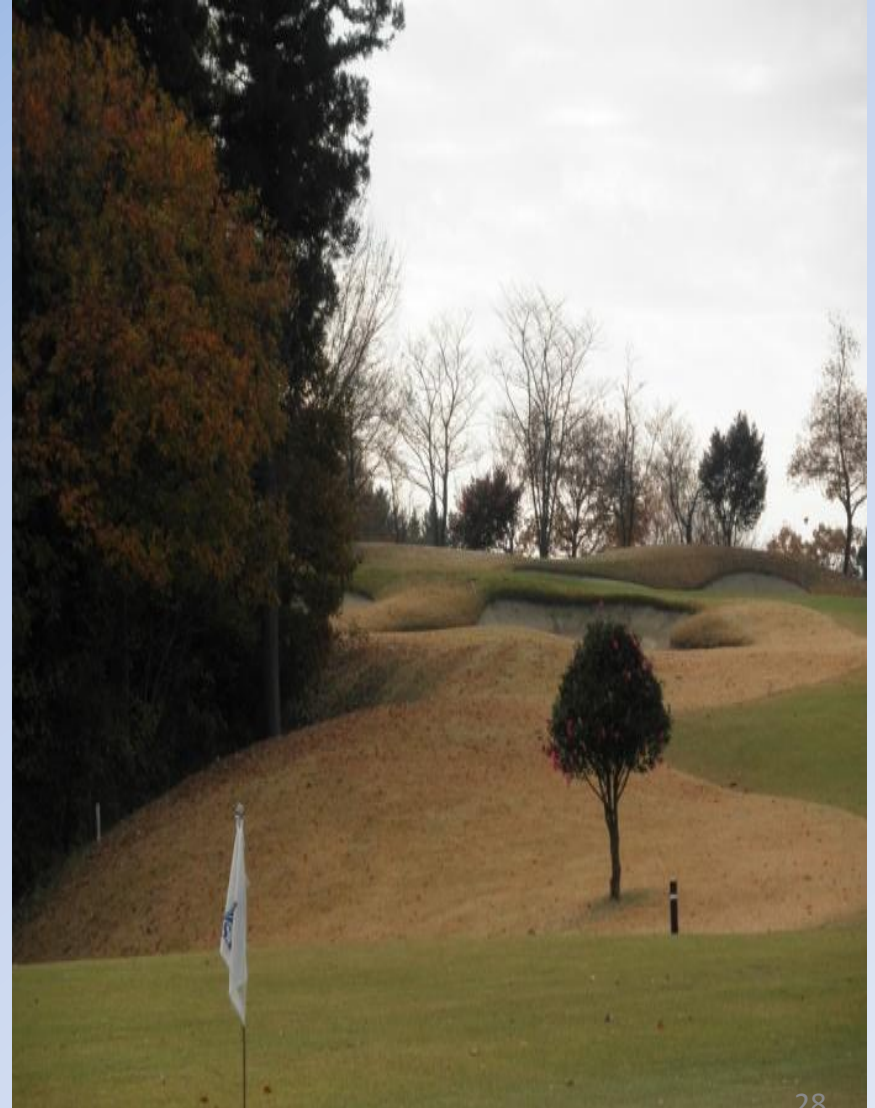
⑥樹木に関する評価



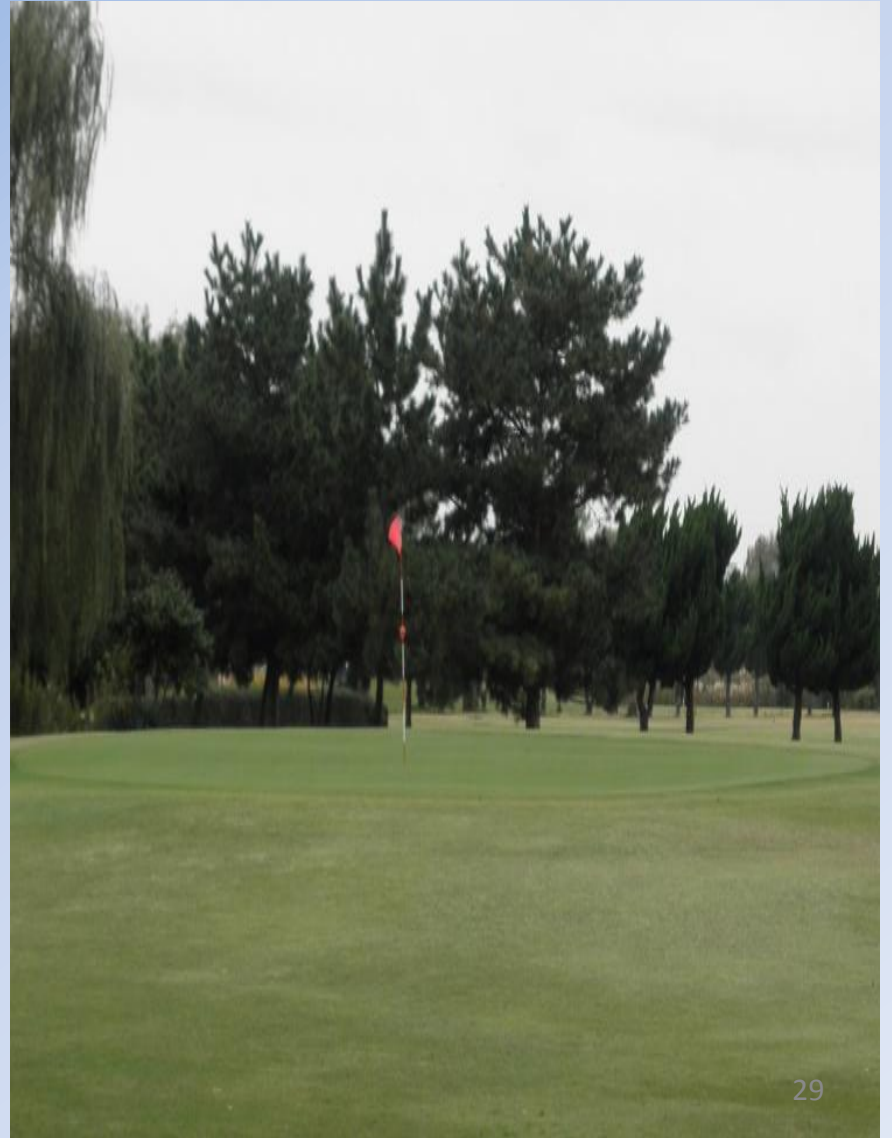
⑦バンカーに関する評価



⑧グリーンへの目標アプローチに関する評価



⑨グリーン周辺のリカバリーに関する評価



⑩グリーンの表面と状況に関する評価



3. コース・レート査定に対する、 倶楽部としての準備と役割

査定委員数

- 査定委員数 →必要最低限の人数で査定
- 新規査定・再査定
 - 1組4名
 - 3組から4組
- 15年再査定
 - 1組5名
 - 18ホールの場合は、原則1組
 - 27ホールの場合は、2組～3組
- 出席委員の案内→査定日の2日前までに連絡

キャディーさんについて

- 1組につき2名
- キャディーさんの仕事→通常の業務内容と同様
- キャディーさんが不在の倶楽部の場合
→倶楽部の方
- 査定中は、キャディーさんと査定委員のみ

査定のスタート時間について

■ 査定のスタート時間

- トップスタート（通常8時）
- 18ホールのスループレー

■ 査定ラウンドの時間

- 9ホールで、1時間20分から40分

■ 査定当日の一般プレーヤーのスタート制限

- スタート：査定委員がトップスタート
- おり返し：8:30分以降一般プレーヤーのスタートは止めてください

査定のスタート方法 (ホール別)

■18ホールの場合

- OUTコースは、8時トップスタート
- I Nコースは、9時20分～40分スタート

※I Nコース：一般のプレーヤーのスタートは8時30分まで

■27ホールの場合

- 原則3コース(A・B・C)より3組に分かれて8時にトップスタート
- 組合せは①A→B、②B→C、③C→A
のローテーションでスループレーの査定

※各コースとも一般プレーヤーのスタートは8時30分まで

※場合により、①A→B(メイン)、②B→Cと2組の査定

※詳細は、コース・レート申請時に事務局に問合せ

コース・レート査定のコース準備

■ 下記事項を倶楽部で準備

- ① 査定指示書のコースコンディションで準備
- ② コース内に、実測図面と同じ箇所にティーの設置
- ③ 男女IPの設置
- ④ グリーンの中央にホールの設置

コース・レート査定と コースコンディションについて

■ 査定日のコースコンディションは、
査定指示書の基準でお願いしております。

- ① ティーインググラウンドは固めに、芝は15mm以下
- ② フェアウェイは25mm以下
- ③ グリーンは4mm以下

※倶楽部公式競技と同等の管理を原則

査定日の天候や気温について

■ 査定の基準コース・コンディションについて

- 一年を通じてそのコースがもっている平均的なコンディションを想定
- 冬の時期は、コースの平均的なコンディションの想定が難しいので査定は実施しない

■ 天候・気候について

- 全て、通常のコンディションを想定して査定
- 台風や雪などの悪天候以外、査定は実施する
※通常のプレーができない場合のみ延期

■ 査定日の確認について

- 査定日当日のコースコンディションを確認し、指示書の基準と通常のコースコンディションを参考にして査定を実施

実測図面・スコアカード・ ティーインググラウンド表示板について

■ コース・レート査定基準距離

→実測図面の距離

→スコアカード・コース内ヤード表示板など
実測図面距離と違いがあっても問題な

→全て、実測図面を基準に査定

※統一の必要はありませんが、今後検討されるなら、距離を統一した方が、
ゴルファーは、自分の飛距離もわかり望ましいと思います。

ティーの名称について

■ 査定時ティー名称

→図面の距離の長い順に、BT、RT、FT-1、FT-2、LT-1、LT-2とする

■ 図面提出時のティー名称→倶楽部で使用の名称

■ コース・レートを取得するティー

→男子：BTから4つまで

→女子：男子取得ティー他2つまで取得（LT-1 LT-2）

- BT: 通称: バックティー (BT)
- RT: 通称: レギュラーティー (RT)
- FT: 通称: フロントティー (FT-1 FT-2)
- LT: 通称: レディースティー (LT-1 LT-2)

ティーインググラウンドの大きさについて

- 原則BTの面積→100m²以上を基準
- 他ティーの面積→60m²程度以上を基準

- 基準に満たないティーの場合
 - 倶楽部でコース・レートが必要であれば申請図面に記入
 - 通常の使用や安全面を判断
 - ティーの認定は、査定後の会議で連絡

- 申請ティーが確認できない場合
 - ※よくある事例
 - 例1)ティーに立った時、樹木が著しく影響があり危険を生じる
 - 例2)ティーの面積が小さく、プレーヤーに危険がある
 - 例3)対象のティーからプレーするとボールが他のコースを横切る
 - 例4)ティー後方の壁や樹木が障害になるため、スイングが制限される

ティーの設置位置について①

- 査定を受ける倶楽部が提出する実測距離一覧表のティーの基準点
→原則各ティーインググラウンドの中心点
- ティーの設置→コース・レート永久基点に従って設定
- ティーの組合せ方法や使用するティー→倶楽部に一任



ティーの設置位置について②

■ 図を参考にティーマーカーの位置を設置

①ティーインググラウンド1面に4つのティーを作る場合



②ティーインググラウンド2面に4つのティーを作る場合



③ティーインググラウンド3面に4つのティーを作る場合



④ティーインググラウンド4面以上に4つのティーを作る場合



ティーの距離が同じ場合

■ 申請

- ・同じ距離

例) 1番RT: 400ヤード・FT-1: 400ヤードなど

■ 査定日のコース内

- ・同じ箇所に並べて
ティーの 設置



コース・レート用永久基点について

■ 対象

→BTをはじめ申請を行ったティー

■ 表示方法

→後日腐食しない杭等で示す

■ 設置箇所

→倶楽部がわかる場所に設置

■ 推奨位置

→ティーインググラウンドの両端の外側



女子基準ティーについて

- 女子基準ティー
 - 倶楽部で女子競技を一番使用するティー
 - 倶楽部で設定
- 査定
 - 女子基準ティーから
- 女子IP設置
 - 女子基準ティーから
- 推奨距離
 - 5800ヤード前後

IPについて

■ IPについて

- ・IPとはInter Pivot pointの略

■ IPの設置の基準について

- ・スクラッチ・プレーヤーが平坦な地形においてショットした時の平均飛距離を参考に基準
- ・IPを中心に査定距離の判断や難易度の評価をする重要な基点

■ 実測図面のIP記入方法

- ・実測図面には、男子IPのみ記入
- ・査定時、コースには男女IPの設置

IPの設置方法

【男子】

地点：【第1IP】BTから250ヤード地点

【第2IP】第1IPから

220ヤード地点

- ・位置：FW中央地点
- ・設置：フラック
- ・長さ：グリーンフラックと同様
- ・色：白（原則）

※男子IPの設置は、実測図面とコース同じ箇所にIPを設置



【女子】

地点：【第1IP】女子基準ティーから
210 ヤード地点

【第2IP】女子第1IPから
190ヤード地点

- ・位置：FW中央地点
- ・設置：杭
- ・長さ：修理用杭程度
- ・色：問わない

※女子IPの設置は、コースのみ設置



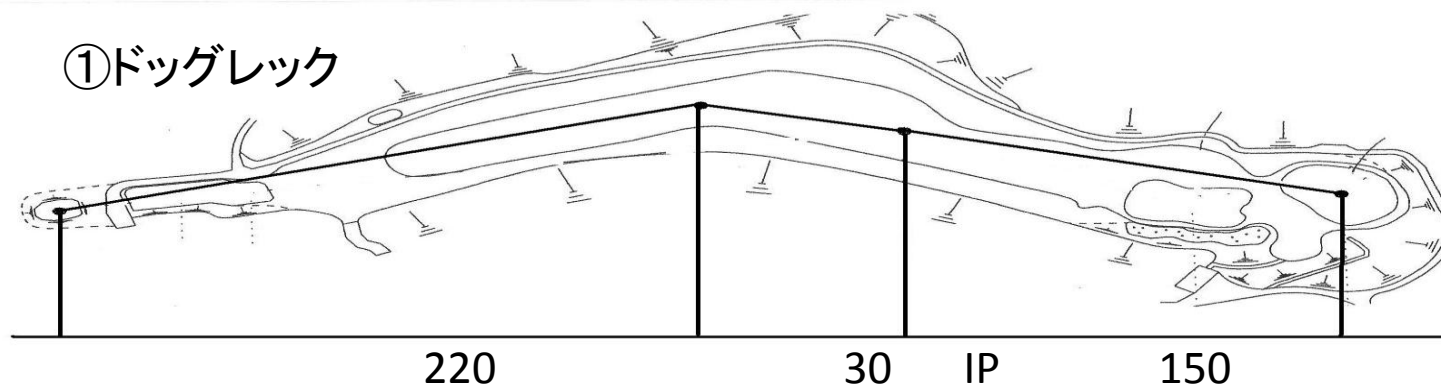
IPの設置位置が特殊な場合

- ドッグレックの場合 (直線でIPが設定できない場合)
 - ・ FWの折れている地点の中心を倶楽部で設定し、その地点を経由して、残りの距離をグリーン方向に計測してIPを設置
 - ※FWの折れている地点の中心までの距離は特に指定はなし
 - ・ 実測図面は、FW出口までの距離と残り距離を表示
 - ・ コースは、男女ともIP地点にフラック(杭)を設置
 - ※折れている地点に表示の必要なし

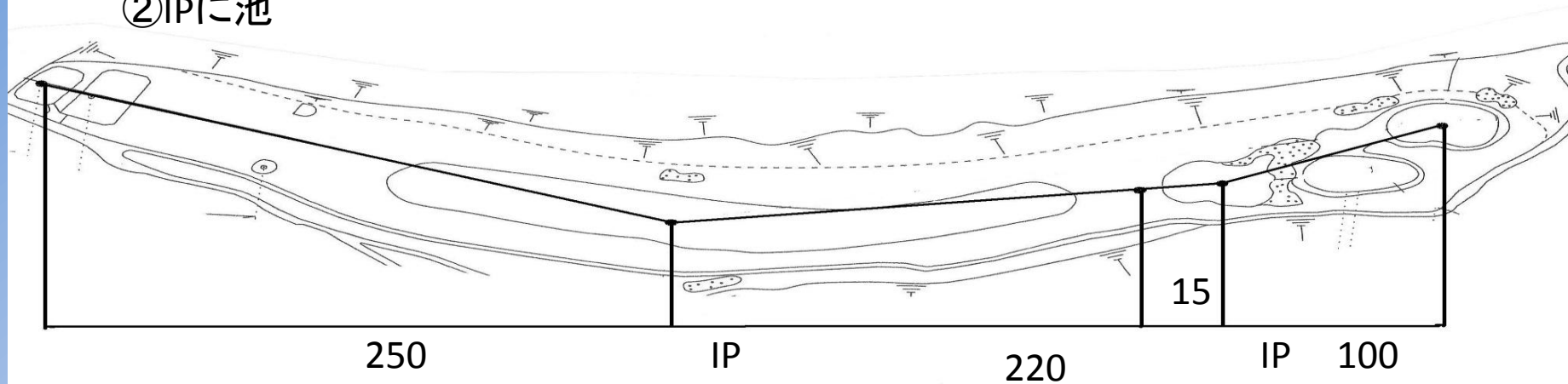
- IPに池がある場合 (直線でIPが池や谷などのハザードにある場合)
 - ・ 実測図面上はIPをそのままハザードの上に記入
 - ※ハザードのIPから、ハザード手前までの距離の明記
 - ※グリーンまでの残り距離は、ハザード内のIPからの距離
 - ・ コースは、ハザード手前までの地点に仮のIPを設置

- 第2IPがグリーン内、グリーンを越える場合
 - ・ 実測図面は第1IPからグリーン中央までの距離を明記
 - ※第2IPの記入はなし
 - ・ コースも、第1IPのみ設置

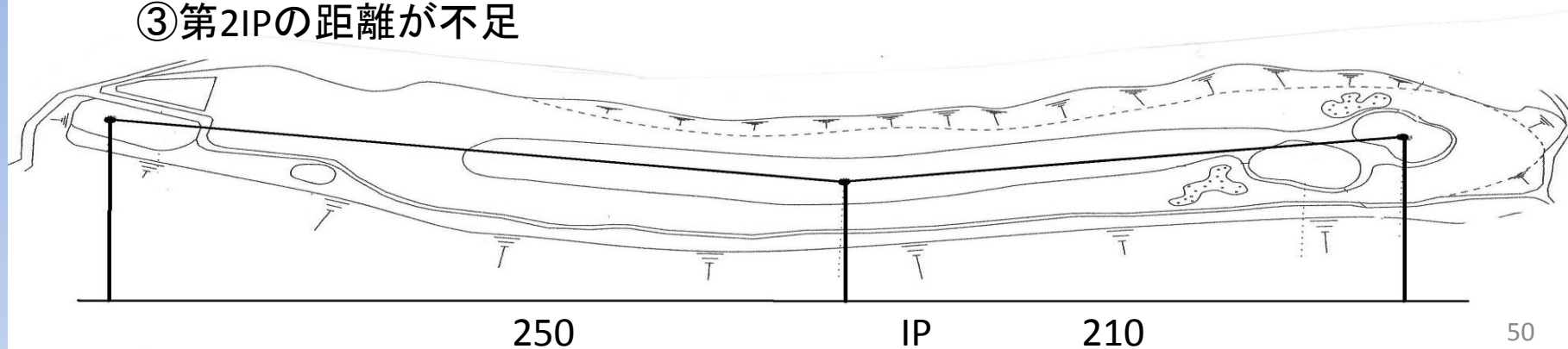
①ドッグレック



②IPに池



③第2IPの距離が不足



グリーンについて

■ コンディションについて

- 通常のコンディションを考慮して査定
- エアレーションなどボールの転がりに影響がある状態での査定は避ける

ホールの位置について

■ ホールの位置→グリーンの中心

※実測距離もティーの中心からグリーンの中心までの距離で計測しているため

※ただし、中心の傾斜が強く不可能な場合は、中心を明示し、近くの平らな位置にホールを設定

■ 2グリーンの場合

査 定 日 →メイングリーンを準備

ホールの位置 →メインのみ

サブグリーン →メイングリーンを考慮して判断

※改修中などでサブグリーンの状態がわからなくなることを避けてください。

コース・レートの決定日について

■コース・レートの通知について

・決定日

査定後の直近のコース・レート委員会

・通知方法

KGAより認定書を書類にて通知

・決定日の連絡方法

査定後の会議で報告

コース管理について

■ コースコンディションについて

→査定後正しいコース・レートを維持するためには、
査定と同様のコンディションを維持することを期待

■ 通常のホールの位置について

- ・ホール(ピン)の位置については、下記の位置を推奨
 - 1/3のホール→比較的易しい
 - 1/3のホール→普通
 - 1/3のホール→比較的難しい

査定後のコース改造について

■ 再査定の必要性

- ・1か所でも変更や改造がありますと、取得時のコース・レートと違いが出る可能性がある。

■ 申請及び査定方法について

- ・「査定申請書」と「改造内容」と「図面(変更前、後)」→KGAに提出
- ・委員会→査定方法を決定→倶楽部に通知
- ※査定方法の決定は、改造の度合いなどによって判断

■ 査定後の改造について

- 例)バンカーの増減、樹木の増減、ティーマーク位置の変更、距離の増減、パーの変更、コースの入れ替え、グリーン草種、ホールナンバーの入れ替え等
→改造がある場合は、KGAに書類提出

■ 申請ティーの組み合わせ変更について

- ・申請したティーの組合せが変更になった場合
 - ・申請外のティー位置が追加になった場合
- コース・レートが未取得の状態になりますので申請が必要

査定後、15年経過した場合

■ 査定後15年が経過

→案内がKGAより送付

■ 猶予期間

→15年経過後3年以内

■ 有効期間

→査定決定日から15年後の12月31日まで

提出書類について

- 提出期限: 査定日の1ヵ月前までに提出
- 提出書類: 下記3種類の書類の提出が必要
 - ① ホール毎の実測図・・・各ホール別の平面図、縦断面図
 - ② 実測距離一覧表・・・査定希望するティー別実測ヤーデージ
 - ③ スコアカード・・・・・・現在使用中のものを提出
- ホール毎の実測図について
 - ・図面とコースが著しく異なる場合には、査定中止もある
 - ・測量には、必ず正確な測量用具を使用
 - ※提出書類の詳細は、添付の資料を参照
 - ※ご不明な点は、KGA事務局に連絡

ハンディキャップナンバーの振り当てについて

■ 理想的な【HDCP.No】の決め方の具体例

① 基本的な設置配置は原則としての方法(左図)

※27ホールの場合は、
18ホール+9ホール、②9ホール単位

② 基本的な仮配置にホール別の距離を考慮

例) アウト1番 (Par3)、2番 (Par4)、3番 (Par5) の
コースがあった場合

→まずPar5の3番に一番若い【HDCP.No】3番

→次にPar4の2番に【HDCP.No】9番

→最後に一番短いPar3の1番に【HDCP.No】15番

③ 【HDCP.No】に難易度を考慮し決定

例) あるパー5のホールよりも

非常に難しいパー4のホールがある場合

→その易しいパー5よりも

若い【HDCP.No】をパー4に与える

	ホール		HDCP No
O U T	1・2・3	⇒	3・9・15
	4・5・6	⇒	1・7・13
	7・8・9	⇒	5・11・17
I N	10・11・12	⇒	4・10・16
	13・14・15	⇒	2・8・14
	16・17・18	⇒	6・12・18

ご清聴ありがとうございました